

指導対象漢字語候補検討資料 凡例

Ver.20210701

<p>a 50音順整理番号</p>	<p>原則として50音順にならべた。 字種により，訓読みの語と，音読みの語を区別して配列する場合がある。 また，合成語や連語をもとの語とならべる場合もある。</p>
<p>b 読み</p>	<p>候補漢字語の読みをひらがなでしめし「見出し語」とした。 j k l m 欄にある語を「基本語イ」とし，この欄で赤字でしめた。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>(中) 中学校段階で指導する音訓。 (高) 高等学校段階で指導する音訓。</p> </div>
<p>c 表記</p>	<p>候補漢字語の一般的な表記をしめた。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>() 内は，異表記。 △は，常用漢字表にない音訓。「表外音訓」。 ×は，常用漢字表にない字。「表外字」。 ●は，2010年常用漢字表追加漢字。</p> </div>
<p>d 学年配当</p>	<p>対応する漢字の「学年別漢字配当表」における小学校の配当学年を○数字でしめた。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>○のみは，教育漢字外の常用漢字。 ●は，2010年常用漢字表追加漢字。 ×は，常用漢字表にない字。「表外字」。</p> </div>
<p>e 意味</p>	<p>候補漢字語のおおまかな意味の下位分類を AB などにて区分した。 複数の区分にわたる語や，区分にふくまれないものは「*」とした。</p>

f 類義・対義・関連の語

「≡」 類義の語
「↔」 対義の語
「*」 複合語・派生語
「⊃」 上位の語
「⊂」 下位に分類される語。

g 語構成

二字漢語の構成を、表作成者の見解をもとに記号でしめた。並列語は赤字でしめた。

「=」 並列語（類義のならば）
「↔」 並列語（対義のならば）
「→」 修飾関係の語
「←」 補足関係・認定関係の語

複合動詞の構成を、表作成者の見解をもとに記号でしめた。

「V + V」 動詞 + 動詞
「V + s」 動詞 + 補助的な動詞
「p + V」 接頭辞化した動詞 + 動詞

■ 国立国語研究所が公開する「複合動詞レキシコン」を参考にした。

h 品詞

「名」 名詞
「五・上・下」 動詞の活用の種類をしめた。
「ス」 “する” がついてサ変動詞となるものには、もとの品詞に「ス」をそえてしめた。
「自・他」 自動詞・他動詞
「形」 形容詞
「形動」 形容動詞
「副」 副詞
その他、「接頭」接頭語、「接尾」接尾語、「語素」語素、「連語」連語など。

■ 『明鏡国語辞典』および『岩波国語辞典』などの品詞分類を参考にした。

i 語種	<p>一般にみられる見解をもとに分類した。 「漢語」「和語」「混種語」「外来語」など、 ■『新潮国語辞典』の認定を参考にした。</p>
j 国字研プリント	<p>漢字指導法研究会の会員著作の『漢字プリント』（ルック刊,2006年）でつかわれている語を赤字でしめた。</p>
k 学習論理語イ一覧表	<p>武部優子（漢字指導法研究会研究参与，啓明学園初等学校元校長）が1962年に作成した「学習論理語イ一覧表」に掲載されている語のうち該当の漢字をふくむ語の<small>小学校提示学年</small>，<small>中学校</small>を赤字でしめた。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>対象小□：対象についての用語（本質と現象）小学校□年 認識小□：人間の知的活動用語（認識）小学校□年 操作小□：人間の知的活動用語（操作）小学校□年</p> </div> <p>論理的思考力をやしなうために，小・中学校のうちにぜひ指導しておきたいものとして，大久保忠利（1909-1990，漢字指導法研究会創立者）の提案をもとに論理語イを70語選定し，体系的に整理したもの。 ■大久保忠利・松山市造・近藤徹編『言語要素指導』国語教育の体系化Ⅰ（明治図書，1962年）所収。</p> <p>★学習論理語イ一覧表（漢字指導法研究会ウェブページ） http://kanzi.la.coccan.jp/5ronnrigo.html</p>
l 批判読み 教育基本語イ	<p>見城慶和（漢字指導法研究会研究参与，元委員長）が1963年に作成した「教育基本語イ」のうち 該当の漢字をふくむ語の<small>小学校および中学校の提示学年</small>を赤字でしめた。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>論感小□：論理性を確かにし感情の質を高めるもの，小学校□年 仲間小□：仲間意識を高めるもの，小学校□年 中学□年：中学校□年</p> </div> <p>■東京都教組荒川教研国語部会『批判読み』（明治図書，1963年）所収。</p>

m 児言研 教育基本語イ

児童言語研究会が1962年に作成した「児言研国語科教育基本語い・第一次試案」に掲載されている語のうち該当の漢字をふくむ小学校段階の語を赤字でしめた。

小A：小学校段階で特に大切な語い
小B：小学校段階でA語に続くもの
中A：中学校段階で特に大切な語い
中B：中学校段階でA語に続くもの

小中学生が「所有していることによって、よりよく思考や認識を活動させる表現・通達することができる語を」えらび、「日常の使用で自然におぼえられる語い」等にはぶき、「系統的・体系的な国語教育が責任をもって教えなければならない重要な語を精選する」という観点から、総語数1955語をえらんでいる。それぞれの語を小学校と中学校のふたつの指導段階にわけ、それをさらにAとBのふたつにわけている。

■大久保忠利・松山市造・近藤徹編『言語要素指導』国語教育の体系化Ⅰ（明治図書，1962年）所収。

n 阪本語イ表

阪本一郎が中心となって1958年と1984年にとりまとめた教育基本語彙のうち該当の漢字をふくむ語を記号でしめた。

小低□：小学校第1～第3学年
小高□：小学校第4～第6学年
中学□：中学校

□：優先順位，最優先を1とし，つづいて2，3，4の順としている。
本検討資料では，「小低1」と「小高1」を赤字でしめた。

「義務教育の9年間に，国語の単語を，どのような範囲で，どのような順序で学習させるのがよいかの基準を示した」としている。総語数は，1958年版が22500語（公称），1984年版が19271語。

前者にあった語のうち後者に掲載されていないものを「×」，前者になく，あらたに後者に掲載された語を「○」とした。また，優先順位の上位に変更されたものを「△」，下位に変更されたものを「▽」とした。

	<p>1958年版の作成には、15人程度の国語教育の実践者、研究者がたずさわっている。そのうちのひとりが、1980年代に児童言語研究会委員長をつとめた松山市造（元・学習院初等科）である。松山市造は、1962年「児言研国語科教育基本語い・第一次試案」の作成にも参画し、このときの経験を生かしたという。さらに1980年代後期には、国字研会員として国字研例会にもたびたび出席し、漢字精選と語イ表作成において「内言と表現通達に、それがなくてはかなわぬ語を選ぶこと」の重要性を指摘している。</p> <p>■阪本一郎『教育基本語彙』（牧書店、1958年）および阪本一郎『新教育基本語彙』（学芸図書、1984年）所収。</p>
<p>o 幼児語イ</p>	<p>大久保愛（漢字指導法研究会元研究参与、国立国語研究所名誉所員）らがおこなった就学前の幼児の語イ調査から、該当の漢字にかかわる語を数字でしめた。</p> <p>調査は、1977年のある一日（約12～14時間）のなかで、4人の6才児がそれぞれの日常生活場面・遊び場面で発話した語を収集したもの。数字は、4人の発語の総計。空欄は、発語がなかったもの。</p> <p>■大久保愛・川又瑠璃子「就学前幼児の語彙－4児による日常生活語の実態－」『研究報告集3』（国立国語研究所報告71、秀英出版、1982年）所収。</p>
<p>p 光村：光村図書出版 q 教出：教育出版 r 東書：東京書籍 s 学図：学校図書</p>	<p>小学校用国語科検定教科書に掲載されている該当の漢字にかかわる語をしめた。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>赤字の語：教科書本文で新出漢字としている語 黒字の語：当該の学年の本文、および巻末一覧表にある語 緑字の語：上学年で提出されているおもな語。○数字は学年。 青字の語：小学校用教科書に掲載されていない語で、中学校、高等学校の各教科の教科書に掲載されているおもな語。教科名をしめた。</p> </div>
<p>t 三省堂 例解小学国語辞典</p>	<p>『三省堂例解小学国語辞典』（田近洵一編）の見出し語にかかげられているものをしめた。そのうち同辞典が「重要語句」と位置づけている語を、赤字でしめた。</p>
<p>u 常用漢字表語例欄</p>	<p>『常用漢字表』（2010年）の語例欄にかかげられている語をしめた。 青字は、当該漢字の欄にある語。</p>